

皇太子嘉仁親王「御撮影」の山陰道行啓 — 「宍道湖御遊覧」写真の発見

第11回調査コラム「松江城天守が写る新出写真-皇太子嘉仁親王ら明治40年山陰道行啓一行-」で紹介したように、日露戦争後に行われた山陰道行啓は、明治天皇の名代として行われた公式の地方行啓であり、当時の人々にとって空前絶後の奉迎行事だった。このため、島根県が公式記録としてまとめた『皇太子殿下島根県行啓日誌』を始め、『記念山陰道行啓録』、『行啓記念春日の光』など同時代の記念誌が編纂され、新聞も奉迎の様子や皇太子の行動を詳細に伝えている。

この山陰道行啓の諸記録を読むと、明治40年(1907)5月25日の「宍道湖御遊覧」は皇太子の心を格別にとらえた催しだったようである(【資料】宍道湖遊覧記事抜粋 参照)。

記録によれば、「宍道湖御遊覧」は旧松江藩主家の松平直亮伯爵(病気のため弟の松平直平子爵が代理を勤める)の催しで、皇太子一行は微行により5月25日午後2時に御旅館(現・興雲閣)を出発、島根県庁前、内中原の交融橋を通過し、天倫寺鼻に新設された棧橋に到着。皇太子の御座船は紅白の幔幕と日章旗で装飾され、他に供奉船5艘、総勢60~70名ほどが湖上に繰り出した。御座船が岸を離れると投網船10艘、曳網(丈高網)船10艘による漁が始まり、コイ・フナ・ボウなどが獲れた。一行の船は漁船の間を通過し、やがて船が嫁ヶ島(よめがしま)に着くと、皇太子は上陸して四方の風景を展望し、写真機で付近を写し始めたという。

皇太子嘉仁親王が嫁ヶ島に上陸し、自ら携行の写真機で撮影を行ったという出来事は、公式記録である『皇太子殿下島根県行啓日誌』を始め、『記念山陰道行啓録』、『行啓記念春日の光』、「山陰新聞」などでも記述されており、地元ではよく知られた逸話である。『記念山陰道行啓録』では、この時の様子を次のように詳しく記述している。

「乃ち嫁島の北渚に御船を着け奉れば、殿下先づ御上陸遊ばされ暫し島内を御逍遥あらせられたる後ち、予て御携帯の写真機を探らせ給ひて先づ御座船と第一供奉船とを写させ給ひ、知事を顧みて、卿も此中に映て居るよと仰せ給ひぬ。申すも畏き事ながら、殿下には常に写真術を好せ給ひ、今回のご旅行にも絶えず御撮影あらせらるる由承りしが、此日は湖上極めて晴れやかなる上、双方にて網を打ち御す態のいとど御意に召したりけん。御舟の中よりも網引く態及び城山御座所杯御撮影遊されたり。」

記述によれば、皇太子は上陸後に、まず御座船と第一供奉船を写し、松永武吉島根県知事も被写体になっていた。御座船の中からも漁の様子、松江御旅館の方向を撮影していた。また、山陰道行啓中も、随所で自ら撮影を行っていたようである。

では、記録に記されたような皇太子嘉仁親王による明治 40 年山陰道行啓時の写真は現存しているのだろうか。いろいろ調べてみると、宮内庁「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」(<https://shoryobu.kunaicho.go.jp/>) により公開されている、「〔東宮〕嘉仁親王巡洋艦筑摩進水式台臨記念写真帖」(函架番号 B1・61、および同 B1・65) と題された二つの写真アルバム中の写真が、明治 44 年の山陰道行啓時に皇太子嘉仁親王が撮影した写真ではないかと気づいた。二つのアルバムには、同じ写真がそれぞれ 64 枚、同じような割付けで台紙に貼り付けられており、艦艇のイルミネーション、米子御旅館、倉吉御旅館、鳥取御旅館、松江御旅館、宍道湖遊覧風景、玉湯村大字林御野立所、最後に浜田御旅館など、行啓順路に沿う形で写真が並んでいる。

興味深いことに、アルバムからは「宍道湖御遊覧」時の 9 枚もの写真が確認できる。宍道湖での漁の写真、御座船・供奉船の写真、シルクハット姿の人物が写る写真も含まれており、皇太子の撮影という行啓時の記録とも一致する。(【写真】皇太子嘉仁親王「御撮影」の山陰道行啓と「宍道湖御遊覧」)

明治 40 年の「宍道湖御遊覧」は、皇太子嘉仁親王の心を格別にとらえた催しだったことが残された写真からも偲ばれる。『皇太子殿下島根県行啓日誌』は、皇太子が宍道湖遊覧を終えて、「御機嫌麗ハシク還御アラセラル」と記録している。

(松江市歴史まちづくり部史料調査課／稲田信／令和 3 年 9 月 6 日記)

【写真】 皇太子嘉仁親王「御撮影」の山陰道行啓と「宍道湖御遊覧」

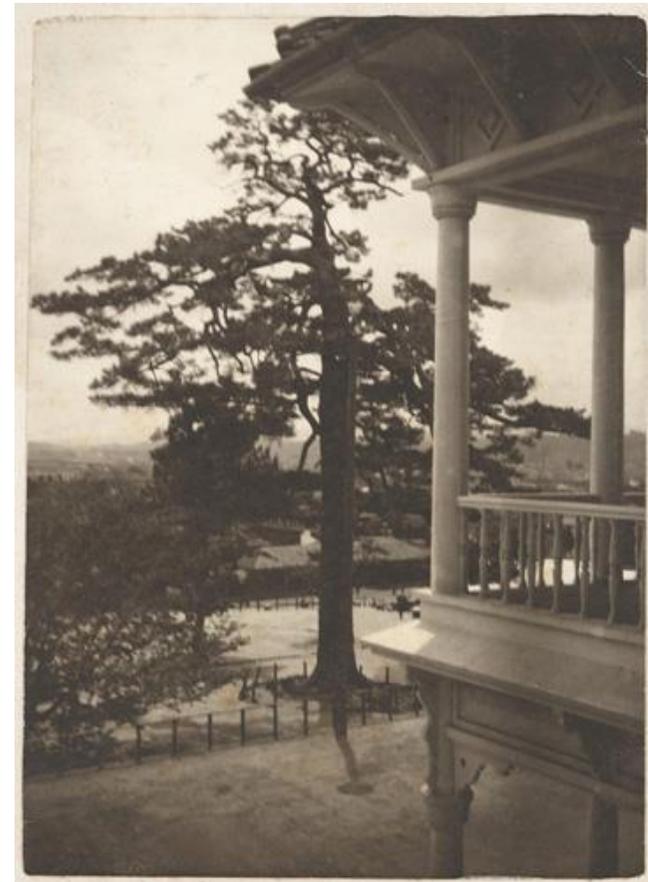
出典：宮内庁「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」より「〔東宮〕 嘉仁親王巡洋艦筑摩進水式台臨記念写真帖」函架番号 B1・65
(<https://shoryobu.kunaicho.go.jp/Toshoryo/Detail/1000521350000?searchIndex=11>)

(注意) 写真キャプションはコラム執筆者による。



上【写真 1】鳥取御旅館（仁風閣）

右【写真 2】松江御旅館（現・興雲閣）2階ベランダか





【写真3】「宍道湖御遊覧」（宍道湖での漁。船中からの撮影か）



【写真4】「宍道湖御遊覧」（嫁ヶ島に着岸する供奉船。嫁ヶ島からの撮影）



【写真5】「穴道湖御遊覧」(供奉船。嫁ヶ島からの撮影)



【写真6】「穴道湖御遊覧」(嫁ヶ島に上陸する供奉員たち。右に御座船、左に供奉船)



【写真 7】「宍道湖御遊覧」（宍道湖での漁。船中からの撮影か）



【写真 8】「宍道湖御遊覧」（船中または嫁ヶ島から松江城、松江御旅館方向を望む）



【写真 9】「宍道湖御遊覧」（船中または嫁ヶ島から嵩山、和久羅山を望む）



【写真 10】「宍道湖御遊覧」（供奉船。嫁ヶ島からの撮影）



【写真 11】「宍道湖御遊覧」（供奉船。嫁ヶ島からの撮影）



【写真 12】玉湯村大字林御野立所より宍道湖を望む



【写真 13】大田御旅館（安濃郡立農業学校）



【写真 14】浜田御旅館（御便殿）